

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年 5月 16日

No.18

賃金削減計画に反対し、夏季手当を要求！ 基準内賃金×2.5ヶ月

回答指定日 6月14日 支払日 7月 5日

中央本部は、本日9時より2013年度夏季手当の申し入れを行いました。申し入れにあたり中央本部は、①平成24年度決算において、収入が昨年を下回る中で4億5千万の経常黒字を達成した。相次ぐ災害や輸送障害がありながらの黒字達成は、まさしく組合員の努力によって確保された黒字である。②国土交通省・将来ビジョン懇談会でJR貨物の経営について「2年程度で経営改革を断行すべき」と指摘されている。改革を進めるには職場で働く組合員のモチベーションを向上させることが必要である。よって成果配分としての夏季手当について、満額回答を求める。③今年度の事業計画において手当を含めた賃金削減が計画されているが、貨物労組としてこの賃金削減計画については断固として反対であり、撤回を求める。④貨物会社の将来を明るいものにするために、経営陣は判断するべきである。申し入れに対し誠意ある回答を示すことを主張しました。

これに対し会社は、①平成24年度決算は経常利益で4億5千万円、当期純利益で4億4千万円の黒字決算となった。この間の社員の頑張りに感謝したい。一方で鉄道事業部門は引き続き赤字であり、計画に沿って収支改善を進める必要がある。②4月の運輸収入は、災害等の発生により速報ベースで対計画1億4千万円の未達となったが、5月については現在まで対計画で若干プラスとなっている。今後とも収入確保に向けて全力で取り組んでいきたい。③今年度は鉄道事業部門の黒字化へ道筋をつけることが求められており、まさしく勝負の年である。④夏季手当については、会社の現状を見極めたうえで真摯な議論を通じて進めていきたい。と現段階における考え方を明らかにしました。

《経営陣は緊張感に欠ける。収入拡大に向け奔走せよ！！》

中央本部は、①頑張ってきた組合員の苦勞に対する還元が未だに行われていない。この間の経営不振は経営陣の責任によるものであり、その責任を組合員に転嫁することは断固認められない。組合員と経営陣が同じ方向を向いて取り組まなくてはならないのに、溝が深まるばかりだ。②今年度は勝負の年と言っているが、経営陣にその認識はあるのか。職場の組合員にはその必死さが全く見えない。③この間、団体交渉の申し入れや、労連の組合結成時における妨害行為など、労働組合を軽視する姿勢が見られるが、貨物労組は断固認めるわけにいかない。と糾しました。

組合員の皆さん！私たちはどんな困難な状況にも逃げることなく、責任組合として真摯に受け止め対応してきました。一方、会社は3期連続の黒字決算を達成しながらも「厳しい経営状況」を理由として、これまで以上に明確な手当抑制姿勢を見せてきました。会社の人件費削減への攻撃をはね返し、3年連続の黒字決算という成果をしっかりと夏季手当で還元させるため、全組合員が一丸となって闘いをつくり出そうではありませんか。中央本部は、組合員の想いに立ち、その最先頭で奮闘していく事を明らかにして、第1回交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は5月23日(木)です。